

「JEFの歩み」について里見光徳顧問（第2代理事長）が詳細に書き記した文章があり、連盟ホームページに掲載されています。ここではその文章をもとに連盟創立までの経緯（抜粋）と、創立50周年からの10年間を紹介します。

## 日本教職員バドミントン連盟（JEF）の歩み

### ■その1：JEF誕生まで（抜粋）

（文責）JEF顧問 里見 光徳

#### 1954年（昭和29年）

この年、東京都において高等学校ばかりでなく中学校にもバドミントンを始めた学校が出来たので、中学校のバドミントン大会を開催することになった。聖学院中・高等学校でバドミントンを指導されていた今井先（はじめ）先生が、その大会開催を呼びかけた。大会に参加した主なところは男子では聖学院中（今井先生）、台東区立竜泉中（平田登志郎先生）、麻布中（安楽末夫先生）などで、女子では女子聖学院中（佐野美代子先生）、十文字中（大塚直先生）など数校が集まってきたのである。

そこで東京都中学校体育連盟の傘下にバドミントン部を創立することとなった。今井先生を中心に平田先生などがその中心になったのである。また、都中体連の理事であった川上・古梶両先生の的確なご指導やご助言もあり、また、今井・平田両先生の熱意によって加盟申請は都中体連理事会において、満場一致の承認が得られたのである。時は昭和30年3月30日であった。このことがきっかけとなり、東京都内でバドミントンを指導している教員の組織を結成する気運が高まってきたのである。

また一方では、大田区立大森第四中学校へ教育実習生として小泉伸坦氏が配属された。バドミントン部の顧問であった池田昌道先生の依頼により、クラブ活動としてのバドミントン部を指導することになった。このことが縁となり、教育実習終了後も引き続き指導を依頼された。小泉・里見光徳両名（東京学芸大学の同期生）が出かけて指導したのもこの年である。このとき、この中学校の2年生に在籍していた少年に、後の本連盟機関誌「JEF NEWS」編集長になった本間研一氏がいたのである。

#### 1955年（昭和30年）

9月、今井先生の勤務先である聖学院高校に平田、池田、大塚、小泉、里見の他数人の先生が招集され、毎週土曜日に定期的に練習会を始めることになった。また、女性として諸田みやこさん（日本女子体育短大学生）もおられた。この時集まったメンバーが後のBFC（Bird Friends' Club）の中心的人物になったのである。また、後の東京都教職員バドミントン連盟（TEF）、日本教職員バドミントン連盟（JEF）の組織作りの原動力にもなったのである。

#### 1956年（昭和31年）

東京都の教員の組織（BFC）は毎週の練習会で今井先生を中心に団結していった。だが、視野を東京ばかりでなく、他の道府県にも向けなければならないという使命感があった。全国各地でバドミントンの普及発展に地道な努力をされている人の中には、何といても我々教員の仲間が多数を占めていることは言うまでもない。そのような教員の指導者がお互いに連絡をとりあい、日頃の体験や研究を持ち寄って、指導者の研修をする場や組織などを作れば、もっと日本のバドミントンは向上すると考えた。そのためには、その方々と直接お目にかかり、技術や意見の交換をする必要があり、それには我々から積極的にそこに出かけ、意思の疎通をはかることに意義を感じたのである。かくして毎年、夏休みを利用してラケットを持ち、各地を転戦しながら同好の志を求めることになったのである。

この年は、仙台・室蘭・富川・札幌と北へのコースをとった。仙台では名門尚綱女学院で、室蘭では佐藤哲郎先生に、また札幌では奈良岡健三先生を始め小飼栄一・神山周二諸氏に大歓迎を受けた。特に、この札幌での樽ごと出された生ビールの旨さは、今もって語り草になっている。富川では牧歌的な富川高校体育館で合宿し、技術面ばかりでなくバドミントン理論の研修にも励んだのである。

## 1957年(昭和32年)

前年同様、夏休みになると早速ラケットを持ち、先ず岡山に出かけた。そこでの名門山陽女子高校にて毛利清志・山上周之・西崎正明諸先生方と試合や懇談会を行なった。次に四国高松に渡って穂山正雄先生を訪たり、さらに瀬戸内海を夜、航海しながら別府に上陸、宮崎・鹿児島と観光を楽しみながら熊本へと入った。ここでは伊藤基記先生のお世話で試合やら交歓会など行ない、教員の組織を創ることに深い理解を示していただいた。このとき、熊本商科大学の学生であった徳重氏(後にカールトン社勤務)には、我々一行のために付ききりで面倒を見ていただいたことを大変感謝している。その後、長崎に行ったが台風に遭い、旅館に閉じ込められ、日程を遅らせて広島から松江へと向かい、全国高校大会を見学したのである。

## 1958年(昭和33年)

この年の夏、新潟へ出かけて全国高校大会を見学し、さらにこの地で合宿をした。ここでは市嶋智三郎先生にお目にかかり、新潟の先生方と交流を深めていった。その後、佐渡に渡りバドミントンに大変熱心な臼杵先生にお会いできた。すっかり意気投合してバドミントンについて大いに語り、お互いに将来の日本教職員バドミントン連盟の結成を約束し、お別れしたのである。

聖学院における定例練習会に平田先生が新人紹介をした。当時、台東区立竜泉中学に赴任した前田耕作先生である。その頃の組織BFCのメンバーになるためには練習会でメンバーに紹介し、仲間として共にやってもらえるかどうかを一定期間お付き合いして入会を決めていたのである。少数精鋭で努力するしかない時代で、それまでも何人かが紹介されたが、長続きしなかった。その点、彼は素晴らしい才能とファイトで我々の一員となつたし、その後我々組織の重要な人物となつたのである。

## 1959年(昭和34年)

我々のこのような地道な努力は、多少なりとも影響を及ぼしたのか、あるいは時代の趨勢によるものか、この年から国民体育大会のバドミントン種目の中に「教員の部」が設けられ、ようやく一つの念願がかなったかのように思えた。

他の競技団体でも同様であるが、それぞれの競技での初期の段階では、というより昭和20～30年代では教員に実力があり、普及の原動力でもあり、それに加えて練習時間が生徒指導という名目であれ豊富であり、一般の者ではとてもかなわないという状況にあった。そのため一般男子の種目の中から締め出さないと勝負にならないという一面もあったのである。

このような状況の中で、我々日本教職員バドミントン連盟は日本バドミントン協会に加盟申請をしたが、仲間と思っていた教員から反対され受け入れられなかった。国体の「教員の部」があるのに、更にその上「教職員大会」を開催する必要はないと言うのである。その時の反対理由の説明で“屋上屋を架する”と言う言葉が、今でも記憶に生々しい。

## 1960年(昭和35年)

我が国のバドミントンの普及発展は目覚ましいものであった。しかし、今日の発展は全国各地で地道に努力してきた我々教職員指導者によるところ大であると自負している。『全国の教職員が一体となり、日頃の体験や研究を持ち寄って研修の場と組織を作ろう』との声が各地であった。着々としてその基礎固めをしてきたし、全国各地には教職員の全国組織の必要性を理解して活躍していた篤志家も多かった。それにもかかわらず“日本バドミントン協会”の承認を得られなかった理由は何であるかを検討せざるを得なかった。

この年には、地方に出ることなく都内の教職員の組織や関東の教職員の組織固めに努力した。

特に国体では教員の部の資格が小・中・高の常勤教員のみと限定されていた。それがあまりにも厳しいのでバドミントンを指導している事務教員、教育委員会勤務者、大学教職員、その他教育機関なら講師でも助手でも参加できるようにしよう我々連盟の参加資格の共通理解を持ったのである。それ以来、広い範囲の指導者(教職員)で組織化する連盟となるような基本構想としたのである。

## 1961年(昭和36年) 日本教職員バドミントン連盟(JEF) 結成の年

この年、日本バドミントン協会の新理事長に森友徳兵衛氏が就任した。森友氏は意欲的に協会の機構作りには奔走し、折から胎動しつつあったわが教職員連盟に対し、その労を惜しまずこの年の9月30日、遂に本連

盟が誕生したのである。(同10月7日の日本バドミントン協会の臨時総会において正式に承認された)全国各地にある先達者諸氏の営々孔々たる努力がついに実ったのである。

我々は我らの組織を『日本教職員バドミントン連盟』[JAPAN EDUCATORS' FEDERATION (略称JEF)]と名付けた。会長には栗本義彦氏(日本体育大学学長)を推戴、平田登志郎氏(当時文京区立第二中学校)が初代理事長に就任した。

英語表記について編集部註：当初は「JAPAN EDUCATORS' FEDERATION」としていたが、現在は「THE JAPAN EDUCATORS' BADMINTON FEDERATION」と表記している。

### 1962年(昭和37年)

第1回 全国教職員大会・東京都で開く 文京区

第1回 全国指導者研修会が同時に開催される

第1回全国教職員大会は東京都文京区立第二中学校体育館において、北海道、秋田、栃木、群馬、千葉、東京、静岡、岐阜、石川、大阪、岡山、山口、熊本の13都道府県からの精鋭が集まった。

第1回全国学校体育指導者研修会は第5次日本協会指導者研修会として同校で開催、高倉正治氏(日本文学理事)から「バドミントンの国際関係」について、今井先氏(二階堂高校教諭)から「競技規則と大会運営規定」について、平田登志郎氏(JEF理事長)から「中学校におけるバドミントンクラブの現状と展望等」について解説や講義、そして討論が展開された。また、将来JEFの二大事業として全国教職員大会と全国指導者研修会が毎年行われることが可決された。なお、この年に『バドミントン体育』(後に教職員連盟機関誌)が創刊された。

## ■その2：創立50周年から60周年へ

(以下、文責) 稲石 一雄

### 2011年(平成23年)

第50回 全日本教職員大会 愛媛県松山市(愛媛県武道館・北条スポーツセンター体育館)  
参加都道府県41

同研修会「目からウロコの“マッスルケア”」

講師：キネシオテーピング協会 CKTI指導員 畑中亮一氏

第32回懇親会を開く

本来は山形県で開催する予定であったが3月11日の大地震の影響で、急遽愛媛県に依頼し、開催にこぎつけた。山形県が用意していた「50回」のロゴを使用するなど、心温まる大会の開催となった。また今回は一般男子団体と一般女子団体に県知事賞が授与された。ちなみに中村時広県知事は関場会長の大学の教え子であり、バドミントン部員であった。

総会において3連覇の永久杯をやめ、代わりにレプリカを授与することを承認した。

今年度より単複に年齢をまたがって出場できるようになった。(ダブルスは若いパートナーの年齢以下の部に出ること。)

70歳以上男子単・50歳以上女子単は参加数が8を超えた。(正式な認可はまだであるが、日本協会より金メダルが授与された。)

第13回派遣審判員制度

公益財団法人日本体育協会創立100周年を記念して、平田登志郎・里見光徳両氏が功労賞を受けた。

『JEF NEWS』91号(夏号)、92号(秋号)を発行

『JEF NEWS』92号(H23.10.1発行)は創立50周年記念特別号となる。

10月1日 「JEF50周年記念の集い」開催 於：アルカディア市ヶ谷  
(祝賀会という名称は自粛した。)



従来行われていた全関東教育系大学学生バドミントン選手権を、今年度より全日本大会として本連盟が主催することになった。そのため、今井先基金に本連盟役員有志の寄付を足してカップを新調した。

第1回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成23年12月26日～28日 東京都（墨田区総合体育館、墨田区立両国中学校体育館）

26大学参加

優勝者は以下の通り

- 男子単 浦井唯行（帝京大学）
- 男子複 鈴木翔太・渡部茂太（帝京大学）
- 女子単 佐藤 楓（筑波大学）
- 女子複 奥井智奈美・佐藤 楓（筑波大学）

## 2012年（平成24年）

第51回 全日本教職員大会 長野県長野市（ホワイトリンク・長野運動公園総合運動場体育館）  
参加都道府県42

同研修会「スポーツ歯学って何だろう」～私のスポーツ歯学実践～

講師：板東陽月氏（ばんどう歯科医院）

第33回懇親会を開く

70歳以上男子単・50歳以上女子単が正式種目となる。

桜内文城氏が名誉会長に就任。

教職員大会参加資格の一部改正

来年度から他連盟に加盟している選手でも参加できるようにした。総会で可決。

第14回派遣審判員制度

第2回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成24年12月20日～22日 東京都（葛飾区総合スポーツセンター）

23大学参加

優勝者は以下の通り

- 男子単 鈴木翔太（帝京大学）
- 男子複 佐久間浩平・定宗隆一郎（筑波大学）
- 女子単 奥 幸那（筑波大学）
- 女子複 久保田奈緒・上原ちさと（東京女子体育大学）

『JEF NEWS』93号（夏号）、94号（秋号）を発行

## 2013年（平成25年）

第52回 全日本教職員大会 宮崎県宮崎市（宮崎県体育館・宮崎市総合体育館）  
参加都道府県40

同研修会『バドミントンとスポーツ障害』

講師：金谷正一氏（宮崎県公認アスレチックトレーナー・かなや鍼灸院）

第34回懇親会を開く

総会において参加資格について確認をした。

他連盟加盟者でも出場できるが、他連盟が禁止している場合は出場不可のこともある。

外部コーチの解釈を確認。

第15回派遣審判員制度

第3回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成25年12月21日～23日 千葉県・東京都（千葉商科大学、東京工業大学）

22大学参加

優勝者は以下の通り

- 男子単 山本皓策（筑波大学）
- 男子複 森田 努・伊佐勇希（帝京大学）
- 女子単 大久保敦美（筑波大学）

女子複 三島幸子・吉澤麻衣(東京女子体育大学)  
『JEF NEWS』95号(夏号)、96号(冬号)を発行

## 2014年(平成26年)

第53回 全日本教職員大会 東京都墨田区・葛飾区・台東区・江東区  
(墨田区総合体育館・葛飾区総合スポーツセンター・台東リバーサイドスポーツセンター・江東区深川スポーツセンター)

参加都道府県41

同研修会『学校教育における部活動の意義と体罰の防止』

講師：上岡 学氏(武蔵野大学教育学部教授)

第35回懇親会を開く

総会において参加資格について確認をした。

派遣審判員の褒賞について検討していることを報告。

第16回派遣審判員制度

稲石副会長・高橋理事長が日本バドミントン協会功労賞を受賞。

高橋理事長がBWF功労賞を受賞。BAC副会長に就任。

第4回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成26年12月27日～28日 東京都(葛飾区総合スポーツセンター)

22大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 加藤一郎(帝京大学)

男子複 加藤一郎・齋藤謙太(帝京大学)

女子単 漆崎真子(筑波大学)

女子複 加藤美幸・柏原みき(筑波大学)

『JEF NEWS』97号(夏号)、98号(冬号)を発行

## 2015年(平成27年)

第54回 全日本教職員大会 奈良県田原本町(田原本町中央体育館)  
・大和郡山市(奈良学園中学高等学校体育館)

参加都道府県41

同研修会『バドミントンとの歩み』

講師：銭谷欽治氏(公益財団法人日本バドミントン協会専務理事)

第36回懇親会を開く

70歳以上男子複・50歳以上女子複が正式種目となる。

成壮年女子団体をエキジビションで実施。

今年度から個人戦参加費が5000円となった。

総会において参加資格について確認をした。

派遣審判員の褒賞が来年度から表彰状授与となった。

第17回派遣審判員制度

第5回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成27年12月26日～27日 東京都(葛飾区総合スポーツセンター)

21大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 馬場湧生(筑波大学)

男子複 加藤一郎・齋藤謙太(帝京大学)

女子単 大久保敦美(筑波大学)

女子複 綿矢汐里・柏原みき(筑波大学)

『JEF NEWS』99号(夏号)、100号(冬号)を発行

## 2016年（平成28年）

第55回 全日本教職員大会 鳥取県鳥取市（コカ・コーラ ウェストスポーツパーク体育館・鳥取産業体育館）  
参加都道府県41

同研修会『LOVE BADMINTON－多くの仲間との出会い－』

講師：高橋英夫氏（公益財団法人日本バドミントン協会理事・本連盟理事長）

第37回懇親会を開く

第18回派遣審判員制度（団体戦開始前に体育館において表彰を行う。）

大会会場に熊本大地震義捐のための募金箱を置いた。

第6回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成28年12月24日～25日 東京都（葛飾区総合スポーツセンター）

20大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 馬場湧生（筑波大学）

男子複 馬場湧生・牧野桂太（筑波大学）

女子単 飯村梨衣子（東京女子体育大学）

女子複 加藤美幸・柏原みき（筑波大学）

モルディブバドミントン協会ジュニア育成支援事業を後援

『JEF NEWS』101号（夏号）、102号（冬号）を発行

## 2017年（平成29年度）

第56回 全日本教職員大会 福島県郡山市（郡山総合体育館・安積総合学習センター）  
参加都道府県40

同研修会『本番に強くなる！』

講師：白石 豊氏（朝日大学教授）

第38回懇親会を開く

第19回派遣審判員制度

第7回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成29年12月24日～25日 東京都（葛飾区奥戸総合スポーツセンター）

17大学参加

優勝者は以下の通り

男子単 牧野桂大（筑波大学）

男子複 原 峻章・新井風海（帝京大学）

女子単 日野嘉与（作新学院大学）

女子複 香山未帆・安田美空（筑波大学）

モルディブバドミントン協会ジュニア育成支援事業を後援

『JEF NEWS』103号（夏号）、104号（冬号）を発行

## 2018年（平成30年度）

第57回 全日本教職員大会 愛知県一宮市（一宮市総合体育館）  
参加都道府県41

同研修会『小学生バドミンソンの指導環境と中学・高校の技術的繋がり方について』

講師：中口直人氏（日本小学生バドミントン連盟副理事長）

第39回懇親会を開く

第20回派遣審判員制度

団体戦新種目についてのアンケートを実施。それをもとにして総会で新種目創設を提案。

今年度より全国9ブロックに助成金配布。

第8回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

平成30年12月22日・24日 東京都（葛飾区奥戸総合スポーツセンター  
・葛飾区水元総合スポーツセンター）

## 23大学参加

優勝者は以下の通り

男子単	土平 孟 (筑波大学)
男子複	鈴木利拓・森田新太郎 (筑波大学)
女子単	川村芽生奈 (共愛学園前橋国際大学)
女子複	香山未帆・安田美空 (筑波大学)

『JEF NEWS』105号 (夏号)、106号 (冬号) を発行

## 2019年 (令和元年度)

第58回 全日本教職員大会 長崎県長崎市、長与町 (長崎県総合体育館)  
参加都道府県 41

同研修会『教師力で創る新しい人生』-教職からの起業とその経営について-

講師：大野 謙悟氏 (株式会社ARROWS NAGASAKI 代表取締役)

第40回懇親会を開く

第9回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

令和元年12月28日 (土)・29日 (日) 東京都 (葛飾区水元総合スポーツセンターアリーナ)

24大学参加

優勝者は以下の通り

男子単	西野 勝志 (筑波大学)
男子複	森田新太郎・高上 麟龍 (筑波大学)
女子単	香山 三帆 (筑波大学)
女子複	大関 令奈・大石 悠生 (筑波大学)

『JEF NEWS』106号 (夏号)、107号 (冬号) を発行

## 2020年 (令和2年度)

第59回 全日本教職員大会 高知県南国市 (南国市スポーツセンター、高知県立春野総合運動公園体育館)  
「新型コロナウイルス」感染拡大のためやむを得ず中止

第10回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

令和2年12月25日 (金)・26日 (土) 東京都 (葛飾区奥戸総合スポーツセンター)

大学参加 384名申込

「新型コロナウイルス」感染拡大のためやむを得ず中止

秋の叙勲で高橋英夫理事長が旭日双光章を受章。

『JEF NEWS』109号 (夏号)、110号 (冬号) を発行

## 2021年 (令和3年)

第60回 全日本教職員大会 新潟県新潟市 (秋葉区総合体育館、新潟市体育館)

「新型コロナウイルス」感染拡大のためやむを得ず中止

第11回 全日本教育系学生バドミントン選手権大会

令和4年2月17日 (木)・18日 (金) 茨城県 (つくばカピオアリーナ・牛久運動公園体育館)

※単複1種目のみ参加可能とした。

18大学・186名 申込

「新型コロナウイルス」感染拡大のためやむを得ず中止とした。

高橋英夫理事長が第6代会長に就任、歸山好和副理事長が第7代理事長に就任。

『JEF NEWS』111号 (夏号)、112号 (冬号) を発行